

一般入試 後期日程

えたりする時間はありませんが、基本的には「文字を見るのに〇・五秒なら〇・五秒と、すべての文字に同じだけの時間をかけて見る。十二万文字の本なら十二万文字すべてを見るためには十二万×〇・五秒(約十七時間)かかるわけで、これを急いでいるからといって〇・一秒で見よとしたら、捨てる誤植も増えなくなってしまう。歩いて五分かかる道のりを走り抜け道を通ったり五分に短縮するような読み方は、少なくともわたしにはできません。

固有名詞や数字、事実関係などの正誤を確かめる「調べもの」は、事実確認、ファクトチェックなども呼ばれます。ゲラに「猫の前足には肉球が五つある」と書いてあったら、ほんとうに五つなのか、四つや六つではないのか、辞書や事典を使って調べます。ちなみにこれを書きながら手許の国語辞書や百辭事典を十冊ほど見てみましたが、猫の前足に肉球何個あるか、明記してあるものは見つけられませんでした。そんなときはインターネットを検索したり、図書館へ足を運んだり、書店や古書店で資料を取り寄せたりして調べます。

素読み、調べもの二度読んで終わりという人、中には素読みと調べものを同時進行で終わらせるとい人もいます。が、わたしは最後まで一度、始めから終わりまで通して読む時間を作るようにしています。素読みや調べものが木の葉を一枚一枚手にとって色や形を見るような「読む」であるのに対し、木から少し離れて、周囲を走りまわるとさまざまな角度から樹形や枝ぶりを見るように「読む」ことで、全体の整合性、不足や重複などを確かめたうえで、素読みと調べものが虫の視点の「読む」だとすれば、通して読むのは鳥の視点の「読む」だといえるでしょうか。字を見るのに気をとられると内容の理解がおろそかになり、調べものに夢中になると単純な誤字脱字を見落とすという具合に、一度にひとつのことしかできない性質なので、分けるようにしています。

(4) このようにして読んでいく二週間はあるという間です。
傍からは一日中机の前で座っているだけと見えるかもしれませんが、それなりに頭も体も使います。一日の終わりにゲラを閉じ、文房具や辞書を片づけると、これとやと好きな本が読める、とほっとします。

どんな本を読むかは個々人の選択です。校正の場合は編集者から依頼されたゲラを読むので、自分なら選ばないような本を読まざるを得ないという場合があります。自分なら選ばない本を読むのは退屈かと思いきや、一冊の本をくり返し読む、理解できるまで読む、とこころ調べながら読むことには、それまでの「読む」にはないおもしろさがありました。編集者から新たなゲラを預かって最初のページをめくるときはいつも、期日までに読み終えられようかという不安と、今度はどんな世界が待っているのだろうかという興奮が入り混じり、マラソン大会でスタートラインに立つときのような気分を味わいます。十年以上続けても飽きることはありません。

そんなことはない

文章を書く仕事をしていると、物知りと思われることが多いが、そんなことはない。

(5) 三谷幸喜のありふれた生活(朝日新聞 二〇二一年二月二十五日付)

人気脚本家である著者の日々が「ありふれた」ものとは思えませんが、たゞとありふれていなくても特別なもののように読ませる文章だからこそ二十年以上も連載が続いているのでしょう。それでも著者はいたって「a ゲンキョ」にこのエッセイも、人目に触れるレベルの文章として、なんとか体裁を保っていられるのは、校閲の方のおかげだといえます。「細かい言葉遣いから、書かれている内容の事実関係まで」「僕のミスを描けられる」と、ミスを「修正」ではなく「指摘してくれる」という表現に校閲記者のゲラにのぞむ態度がうかがわれ、同業者としてはうれしくなっています。

ただ、一点だけ「それは誤解です」といいたいのには、校正者は決して「物知り」ではないということです。

校正者が「物知り」な例として著者は「ペーパー・ムーン」という映画について書いたときの経験を挙げています。

僕は迷いなく「主人公の詐欺師親子」と書いてしまったが、早速チェックが入った。映画の中では、親子とは言っていない

ではないか、という。

詐欺師の男と男の元恋人の幼い娘の道中で、元恋人の娘は詐欺師が自分の本当の父親ではないかと疑っている。詐欺師役のライアン・オニールと娘役のテイタム・オニールが実の親子とあれば、劇中でもふたりは親子はずと思

い込んでしまったとしても無理はありません。指摘を受けて著者が確かめたところ、
著者は「まさか(6)往年の映画のディテールに、ここまで b セイツウしているとは思わなかった」と感嘆し、指摘をした顔も名前知らない校閲記者と「D 友だちになれそうなおもしろい」とさえ書いています。
E わたしが記者の立場だったから、そこまでいってもらえないのは光栄ではあるけれど、困惑もしたでしょう。校正者はかならずしも物事に「セイツウしているからこのよな指摘ができる」とは限らないからです。

「タイプニック」のように有名な映画なら、ゲラを読みながら記憶と照らし合わせて「おかしなところ」もありません。映画好きの歩くアータベイスのような校正者もいるでしょう。でも、一年に五本以上の映画が封切られている現代において、すべての映画に「セイツウしている」ことはほとんど不可能です。
F とくするか。その(6)と調べるしかありません。

かつて担当していた雑誌に(7)新作映画評のページがありました。評を読んだ読者が映画館へ足を運ぶことを想定している連載ですから、ゲラを読んでいく段階では未だ封切られていません。あらすじやカメラワーク、俳優の演技や台詞について事細かに触れられているにしても、頼れるのはプレスリリースやパンフレット、予告編などのわずかな情報源のみ。「右手からなめるように動いていくカメラ」という一文に「左手から見えません。予告編……〇〇……三三のあたりのシーンなら」と鉛筆を入れることができれば幸運なほうで、確かめる手だてがないことも多かった。著者は試写を観た記憶で書いています。記憶だから間違えることもあれば、けれど校正者としては、どれほど記憶力に自信があつたとしても、それを根拠に疑問や指摘の鉛筆を入れることはないはず。少なくともわたしの場合、自分の記憶はとめてにならないものはないと思っています。かならず(8)典拠となる資料を探します。

「親子は言っていないか」という指摘にどんな典拠が示されていたか。紙面ではゲンキョウと書かれていません。自分ならどうやって調べただろう。映画の公式サイト、オンラインデータベース、シナリオ集、メイキングブック。作品によっては動画配信サービスで始めから終わるまで観ることができて可能。書籍の校正にも増して時間が限られている新聞校閲の現場で、どこまで時間をかけられるかはわかりません。

(8) 大だんの校閲記者は、ほんとうに著者と友達になれるくらいに映画通だったのかもしれない。そんなふうに誇れる分野があるわけではないとはいわしはいつも、「校正の仕事をしていると、物知りに思われることが多いが、そんなことはない」と口の中でのいわけをしなが仕事をしていきます。

問一 二重傍線部 a～c のカタカナを漢字になおしたとき同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ二つ選べ。

- | | | | | |
|---|-------|------------|-------------|------------|
| a | ゲンキョ | ① ケン識ある人物 | ② ケン識の美德 | ③ 質素ケン約 |
| b | セイツウ | ④ 係争中のケン案 | ⑤ 地域京ケン | ⑥ 自ゼイ心をもつ |
| c | ゲンキョウ | ⑦ セイ約書を交わす | ⑧ 公明セイト大 | ⑨ セイ果主義 |
| | | ⑩ 真相キユウ明 | ⑪ 平和を希キユウする | ⑫ 新技術の昔キユウ |
| | | ⑬ 耐キユウ消費財 | ⑭ 同志をキユウ合する | |

7 (3.3J)

8 (3.3J)

— 6 —

— 3 —

— 4 —

— 3 —

- 問一 傍線部(1)の「意味としてもっとも適当なもの」を、次の中からそれぞれ一つ選べ。
- い 体裁を保つ ① 現状を保つ ② 心の平穏を保つ ③ 人気を保つ
 け 往年の ④ 昔の ⑤ 無名の ⑥ 忘れ去られた ⑦ 教年前の
 ⑧ 典拠
- ① 記憶を想起するさいに促すべきもの
 ② 職務を遂行するさいに従うべきもの
 ③ 文献などにみえる確かなよりどころ
 ④ 物事が存在するうえで不可欠なよりどころ
 ⑤ 公的書類に示された、活動や論述のよりどころ

- 問二 傍線部(1)「いわゆる『読書』とは少し違います」とあるが、筆者にとっては「読書」と「校正」はどのように違うのか。その違いの説明として**適当でないもの**を、次の中から一つ選べ。
- ① 「読書」は一度だけ読むが、「校正」はくり返し読む
 ② 「読書」は好きなものを読むが、「校正」は依頼されたものを読む
 ③ 「読書」は好きなペースで読むが、「校正」は一定のペースで読む
 ④ 「読書」は短時間で読み終えることもあるが、「校正」はかならず一定の時間をかける
 ⑤ 「読書」は難しいところを飛ばしたりするが、「校正」はひとつひとつ確かめながら読む

- 問四 傍線部(2)「素読み」(3)「通し読み」のときの筆者の読み方にあたるものを、(ア)～(オ)からすべて選ぶとどうなるか。もっとも**適当なもの**を、「素読み」は「**素読み**の選択肢群」から、「通し読み」は「**通し読み**の選択肢群」から、それぞれ一つ選べ。
- 素読み 8 通し読み 9

- 問四 傍線部(2)「素読み」(3)「通し読み」のときの筆者の読み方にあたるものを、(ア)～(オ)からすべて選ぶとどうなるか。もっとも**適当なもの**を、「素読み」は「**素読み**の選択肢群」から、「通し読み」は「**通し読み**の選択肢群」から、それぞれ一つ選べ。
- (ア) 指先や鉛筆の先端で文字をひとつひとつ押さえ、指さし確認するようにして読む読み方
 (イ) 歩いて十五分かかる道のりを走ったり抜け道を通ったりして五分に短縮するような読み方
 (ロ) 猫の前足の肉球がいたいにくくなるのか、辞書や事典を使って調べながら読むような読み方
 (ハ) 木の葉を一枚一枚手にとって色や形を見るような読み方
 (ニ) 木から少し離れて、周囲をぐるりと歩きまわり、さまざまな角度から樹形や枝ぶりを見るような読み方
 (ホ) 「虫の視点」の読み方
 (ヘ) 「鳥の視点」の読み方

- 「素読み」の選択肢群
- ① (ア)・(キ)
 ② (イ)・(エ)
 ③ (ア)・(ロ)・(カ)
 ④ (ア)・(エ)・(カ)
 ⑤ (ロ)・(エ)・(キ)
 ⑥ (ロ)・(オ)・(カ)
- 「通し読み」の選択肢群
- ① (イ)・(キ)
 ② (ロ)・(カ)
 ③ (オ)・(キ)
 ④ (ア)・(エ)・(オ)
 ⑤ (イ)・(ロ)・(カ)
 ⑥ (イ)・(オ)・(キ)

- 8 -

10(3.3J)

9(3.3J)

- 問五 空欄 A に入る語句としてもっとも**適当なもの**を、次の中から一つ選べ。
- ① 読みたいからこそ ② 読みたいうように ③ 読みたくないけど
 ④ 読みたくないから ⑤ 読もうとして

- 問六 傍線部(4)「このように読んで読んで」とあるが、校正のすべての段階を通して貫かれている筆者の姿勢とはどのようなものか。その説明としてもっとも**適当なもの**を、次の中から一つ選べ。
- ① 事実関係の誤りがないかに最大の注意を払い、懸念があればとことん調べて確かめようとする
 ② 内容を理解することだけに終始せず、何らかの現況が含まれる可能性を念頭に、客観性を保つて読もうとする
 ③ 仕事であるからには通常の「読書」のように楽しんで読むことは控え、常に対象をあるがままに受け入れようとする
 ④ 誤謬を無意識に補正してしまう人の脳の特徴を理解し、文字をひとつひとつ確認していく読み方に特化しようとする
 ⑤ 一度にひとつのことしかできない自分の性に合わせてやり方を工夫し、各段階に均等に、十分時間をかけようとする

- 問七 傍線部(5)「三谷幸喜」にかんする記述として本文の内容に**全致しないもの**を、次の中から一つ選べ。
- ① 人気脚本家である
 ② 新聞に長年エッセイを連載している
 ③ 「スーパー・ムーン」という映画について過去に書いたことがある
 ④ 文の中で紹介されたエッセイに、校閲記者への感謝や共感についての記述がある
- 問八 空欄 B に入るものとして**適当な語句**を、次の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを二度用いることはできない。
- ① さもなければ ② そのうえ ③ では ④ もし ⑤ もししたら ⑥ やはり
- B 13 C 14 D 15 E 16 F 17

- 問九 傍線部(6)「つど」を漢字で表記する場合、「つ」に該当するものを次の中から一つ選べ。
- ① 追 ② 対 ③ 津 ④ 通 ⑤ 都

- 問十 傍線部(7)「新作映画評」の校正にかんする記述として本文の内容に**合致しないもの**を、次の中から一つ選べ。
- ① 評の内容の正誤を確かめるすべがないことも珍しくはなかった
 ② 筆者は、記憶にもとづいて校正の鉛筆を入れることはなかった
 ③ 手を尽くして資料を探したとしても、頼れる情報源は限られていた
 ④ 対象となる評は、まだ封切られていない作品についてのものではなかった
 ⑤ 映画評の著者が古い記憶にもとづいて書くので、内容に誤りの含まれる可能性が高かった

- 問十一 傍線部(8)「くだんの」とはどのような意味か。もっとも**適当なもの**を次の中から一つ選べ。
- ① うわさの ② 事件担当の ③ プロの ④ 前で述べた ⑤ 物知りな

- 10 -

12(3.3J)

- 9 -

11(3.3J)

一般入試 後期日程

問十二

甲

- ① 校正の作法は人によって異なるが、素読みと調べものに分ける点だけは、すべての校正者に共通である
- ② 校正において誤字脱字を「拾う」ことは重要であるが、それだけが校正の仕事のすべてではない
- ③ 「調べもの」に際しては、文献資料を読むだけでなく、現地に足を運び実物を直接確認することも重要である
- ④ 辞書や事典をはじめ様々な資料を用いて事実確認を行うが、非常に明らかな事実の場合には記憶に頼ることもある
- ⑤ 「物知り」でなくとも校正はできるが、自分の専門ではない分野の本を一冊校正するには最低でも「専門は必要である」

21

13(3.3J)

乙

文章の強靱さ

観光船「クルライン」は、マンハッタンが、縦に細長い、しかし極度に稠密な島であることを実感できる「格好の乗り物だ」。船は、ハドソンリバー岸を出発点とし南下、自由の女神像を「**d**」ヨウボウしつつ、かつて世界貿易センタービルが聳え立っていたマンハッタン南端を回って、イーストリバーに入りこれを「**x**」遡行する。ウォール街のビル群、ニューヨークマラソンが通るブルックリンブリッジ、やがて現れるスタイリッシュな国連本部ビル、アールデコのクライスタービル。白い羊羹を削ぎ切りにしたようなシテイコープビル。ひととき高いエンパイアステートビル。次々と見せ場がやってくる。

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社現代新書

ベストセラー「生物と無生物のあいだ」はこんなふうになります。著者の研究者人生の起点になったアメリカはマンハッタン。トランクひとつを手に旅立ち、与えられた研究室の窓からイーストリバーを見下ろすと、満員の観光船が川を行き交っている。かつてはあの船の上からマンハッタンの摩天楼を見上げる観光客のひとりだった自分が、いまは同じ船をこうして見下ろしている……映画のような映像が目につくから、著者のもとに送られてきたグラには「パーンとマンハッタンの地図のコピーが貼り付け」られ、「**z**ビルの位置がマーカーペンで塗られていた」のでなくです。「何事かと思えば「見える順番が違います」。

位置関係からエンパイアステートビルが見えるのはクライスタービルよりもずっと前、国連ビルが見えるのはさらにその後ではないか、という校正者からの指摘でした。

「見える順番が違います」という指摘、自分にはできる気がしないと「**聞**」腰が引けてしまふのは無理に苦手意識があるから

- 12 -

14(3.3J)

- 11 -

です。方向音痴という引け目があった、いつまでたっても地図も「**聞**」仲良くない。」「ランドマークの名前を確認するだけなら辞書もも足りますが、地図を広げひとつひとつ印をつけ、観光船の航路をたどりながら位置関係を確かめて、船上から見える景色を想像していくことで初めて「見える順番が違います」と気がつける。

著者はこの指図を読んで「確かに校正者さんの言うとおり」と「認めます」。そのうえで「この部分は、書いたときの流れを尊重してもらって「**聞**」のままでした」というのです。

テレビやSNSの影響が、¹⁰校正の仕事の中でもとりわけ「校閲」の部分が目玉されることが増えました。調べもの、事実確認、ファクトチェックなどさまざまな呼び方がありますが、固有名称や数字、事実関係に誤りがないかどうか信頼性における資料を使って調べ、確かめる工程です。文字や言葉の誤り以上にこうした「事実」に誤りがないか確認を失わせるのは、「事実」は誰の目にも正誤が明らかならぬからです。文字や言葉で「誤り」とされるものの中には、かならずしも誤りとはいききれないものもあります。でも、固有名称や数字などの誤りは誰が見ても「**G**」然とした「誤り」、新聞の校閲記者は「あつてはならない。チャイナのもの」とさえないです。ビルの「見える順番が違う」のは事実と反している。だから改めねばならない。そう考える読者がいたとしても当然です。

ですが、「**聞**」校正とははたしてすべてを「事実」に即して正すべき仕事なのでしょうか。新聞やノンフィクションのような事実を伝えるためのメディアにおいては、正確であることは大前提です。たつたひとつの発言の裏を取るために東京から北海道まで足を運ぶ、著者のそんな地道な積み重ねを、校正者が裏付け補強する。でも「生物と無生物のあいだ」はそうした性質の文章ではありません。著者が「**聞**」「考えた末」に「書いた」との流れを尊重してもらって「**聞**」とした」というのは、この文章においては事実よりも優先されるべきものがあるということです。頭の中で何十回も何百回も反復された記憶は、事実とは違っているかもしれない。でも、その人にとっては事実です。

「**聞**」目ざとい読者がそのうち指摘してくるかもしれない。でも私はあえて、こう書いたのです。そういえるプロセスには含まれている」と、校正者は「事実としては、こうではありませんか」と指摘はします。探る「探らないは編纂者と著者だ。探られなかった指摘も無駄にはなりません。読者からの問い合わせに編纂者は「**聞**」指摘まことに「**聞**」も。ですが著者は、あえて「**聞**」書いたのです」と答えることができます。費やされた時間は建築物の筋交いのように見えないところで文章を強靱にする。

「活字の未来」と題された文章は、こんな一文で締めくくられています。

書き手、編纂者、校正者。この間のでまひまが活字というものを支えているのである。

福岡伸一「リリボンカミキリの書」文藝春秋

意地の張り合い

悪筆で有名なのは、私の知っている範囲では、学者では波多野完治先生、小説家で石原慎太郎氏。波多野先生はともかく、石原氏の原稿だけは¹²現物同様には読めない。丹羽文雄氏の原稿も読みやすい方ではないが、これは、そもそも素直な字で、ただ連筆が思いがけないデフォルメを生んで、それが編纂者・校正者を戸惑わせるのである。

長谷川謙平「本と校正」中公新書

文章誌を担当することになって最初の仕事は忘れられません。世界的な文字学を受賞している作家の肉筆原稿との引き合わせ校正です。何色も色鉛筆で塗り分けられ、別の紙を貼り足して書かれた原稿は、著者の思考がきつ戻りつする過程を写しとったようでした。

データ入稿が主流の現代にあつて、手書き原稿との引き合わせ校正を多く経験させてもらったのは「**聞**」得がたい経験でした。凡

- 14 -

16(3.3J)

- 13 -

15(3.3J)

一般入試 後期日程

紙面に個性がにじむ字もあれば、悠揚迫らぬ人柄を想像させる字もあり、画がきつりと立っていた字がページが進むにつれ走り書きになっていくさまは、思考の速度に手が追いつかない執筆の現場をうかがわせました。最初は読めなかった字も連載で毎月見るうちに慣れてくる。定期的に同じ著者の原稿に接することで字や文体の特徴を覚えるのは雑誌の現場の長所でした。

ここで植にあげられているふたりの作家のうち、丹羽文雄は自ら「私の原稿はひどくよくない」という定評がある」と断言し、石原慎太郎に代わって自ら原稿を読み上げたカセットテープが付属していたといえます。時折混じる「これ、著者自身でさえ読めない原稿をどうやってゲラの形にするのか、かつてはそれが印刷所の仕事でした。雑誌原稿の「解説」を専門にする人材を育成していたのです。

時代の変遷にともない、「悪筆原稿は編集部で読める原稿にしてから渡すことになって」そうした職人は姿を消しました。ようやく原稿を手にした安堵もつかの間、今度は悪筆と格闘するはめにになった編集者は、原稿用紙の行間に解説結果を書き込みます。印刷所はこれを頼りにするわけですが、校正者は手放しで喜べません。

訓練を受けた権字工や著者つきあいの長い編集者なら、個性の強い字もすらと解説できるのかもしれない。とはいっても人間です。人間で開通できることはある。そのとき校正者までもが原稿ではなく編集者の解説結果を見ていたら、誤読そのままで残ってしまいます。オリジナルを見よというのには校正の大原則です。どんなに読みにくい字だったとしても見るべきは解説結果ではなく原稿そのもの、書き込まれた「正解」に惑わされることなく自力で読むでなければ校正とはいえない。

あまり見なくなりましたが、ゲラに「II」という記号が入っていることがあります。「II」と呼ばれるこれは印刷所で「1」という読みませんでしよか」という意味です。こうなると校正は最後の「1」です。読めなかったら最終的には著者に「なんとお書きになったのでしょうか」と尋ねることになります。「誤らば負け」という空気があったようにも感じられました。印刷所の職人には読めない文字があると原稿のコピーを家へ持ち帰り、「晩考する人もいたぞうです。もはやfコン比への感があります。

読めない文字だけを凝視しているとかえって深みにはまるもの。そんなときには視野を広げて、前後の文脈から類推する、その字を含む熟語にはどんなものがあるか考える、原稿の他のページに似た字がないか探す。そうこうするうち天啓のよきに答えが降ってくることもある。そんな経験を重ねて読めるようになっていくものでした。

この先、手書き原稿は減っていくことはあっても増えるとは思いません。引き合わせの技術も必要なくなるのでしょうか。印刷照合という工程があります。引き合わせ校正は原稿とゲラを見比べて、異同があればゲラを原稿通り直す赤字を入れる作業。赤字照合は原稿や「前」のゲラに入った赤字と「次」のゲラを引き合わせて、入未通り修正されていることを確かめる作業です。初校では原稿に編集者が体裁やルビを指定する赤字を入れています。再校では初校に著者・編集者・校正者の三者の赤字が入っている。これらの入未はまだまだ多くが手書きですから、手書きの文字とゲラを確実に引き合わせる技術は、原稿が手書きでなくなっても求められています。

（牟田都子「文にわたる」にまよ）

問十二 二重傍線部dのカタカナを漢字になおすとき適当なものはどれか。次の中からそれぞれ一つ選べ。

- d チョウボウ ① 鳥 ② 眺 ③ 長 ④ 調 ⑤ 頂
- e チメイ ① 致 ② 置 ③ 知 ④ 恥 ⑤ 地
- f コン(比べ) ① 猷 ② 困 ③ 魂 ④ 根 ⑤ 懇

問十四 二重傍線部x「適行」の読みの最初の二文字として適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① お ② き ③ ぎ ④ さ ⑤ せ ⑥ そ

25

24 23 22

- 16 -

18(3.3J)

- 15 -

17(3.3J)

- 問十五 波線部(a)の意味としても最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。
- (a) ランドマーク ① その土地の観光資源となるような建築物
 - ② 地図上に記号で示された施設や構造物
 - ③ その土地の目印や象徴になるようなもの
 - ④ 判断や評価のよりどころや基準となるもの
 - ⑤ 行事や団体の象徴として用いられる記号やデザイン
 - (b) 目ざとい ① 高い教養をもつ
 - ② ものごとくよく見通す
 - ③ 見つめるのがはやい
 - ④ 細かなところまで気がつく
 - ⑤ 良否を見分ける能力がある
 - (c) 悠揚迫らぬ ① 物事に動じず、落ち着いているさま
 - ② 周囲に感化されず、常に我が道をゆくさま
 - ③ 前向きで、あれこれ思い悩まないさま
 - ④ ことあたり内容を深く吟味しないさま
 - ⑤ 大雑把で、細かいところには気を配らないさま

28

27

- 17 -

19(3.3J)

問十六 傍線部「格好の」とはこの場合どのような意味か。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① ちよどよい ② 特別な ③ とりわけ上等な ④ 風格のある ⑤ 見栄えの良い

29

問十七 破線部(i)(w)から「福岡伸一」を主体とするものをすべて選ぶとき、もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① (i)・(w) ② (ii)・(v) ③ (i)・(ii)・(w) ④ (i)・(v)・(w)
- ⑤ (ii)・(ii)・(iv) ⑥ (iii)・(v) ⑦ (i)・(ii)・(v)・(w) ⑧ (i)・(ii)・(iv)・(v)
- ⑨ (ii)・(ii)・(v)・(w)

30

問十八 傍線部⑩「校正の仕事の中でもとりわけ「校閲」の部分」にかんする記述として本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選べ。

- ① 調べもの「事実確認」「ファクトチェック」など、異なる名称で呼ばれることもある
- ② 誰の目にも正誤が明らかとなる部分を扱うため、校正者が神経を尖らせて作業に当たる工程である
- ③ 福岡伸一の原稿に対する「ピルに見える順音が違う」という指摘は、この工程の一環とされた
- ④ 事実を伝えるためのメディアにおいては、正確性を保つうえで、とりわけ重要な工程である
- ⑤ 文字の「誤植」や言葉の「誤り」がないかどうかを、信頼のおける資料を使って調べ、確かめる作業である

31

- 18 -

20(3.3J)

問十九 空欄Gに入るもつとも適当な漢字を、次の中から一つ選べ。

- ① 公 ② 断 ③ 当 ④ 必 ⑤ 歴

32

一般入試 後期日程

問二十 傍線部④「校正とははたしてすべてを『事実』に即して正すべき仕事なのでしょか」という問いにたいする筆者の考えはどのよなものか。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 文章を強靱にすべく、結果的に採用されるか否かを問わず、事実を即して指摘することが校正のなすべき仕事である
- ② 校正者の役目は事実の齟齬を指摘することまでであり、仕事として誤りを正す責を負うべきは編集者である
- ③ 著者が修正を拒否するなどして思うに任せないこともあるが、事実を即して正すのが本来の在り方である
- ④ 文章の性質によって事実よりも優先されるべきものがあるときには、校正者は事実との相違を指摘する必要はない
- ⑤ 事実を即して正すことはもとも校正者の仕事であるが、読者の視線が厳しい昨今、その重要度はさらに増している

問二十一 傍線部②「尋常一様では読めない」とはどういうことか。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 諦めがつくほど読めない
- ② 素人では読めない
- ③ 並たいていでは読めない
- ④ どこを取り出してみても読めない
- ⑤ 通常一般人以外には読めない

問二十二 傍線部④「得がたい経験でした」と筆者がいう理由に当てはまらないものを、次の中から一つ選べ。

- ① 担当した作家らの人柄や、執筆現場のようすを感じ取れたから
- ② 原稿ができあがっていくときの思考のプロセスを感じ取れたから
- ③ 今も必要な手書き原稿を読み解く技術が鍛えられたから
- ④ 繰り返し読んで作家の字や文体の特徴について学ぶことができたから
- ⑤ 作家自身でさえ読めない肉筆原稿からゲラを作成する経験を積めたから

問二十三 空欄 H I に入るもつとも適当な漢字を、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- | | |
|-----|-----|
| H | I |
| ① 先 | ① 玉 |
| ② 壁 | ② 扉 |
| ③ 磔 | ③ 磔 |
| ④ 段 | ④ 盾 |
| ⑤ 盾 | ⑤ 印 |

問二十四 傍線部④「校正者は手放して書けません」と筆者がいう理由に合致するものを、次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① 校正者が原稿を自力で読まねばならないことに変わりはないから
- ② 印刷所に行った「解説」を専門にする職人たちが姿を消したことに心を痛めているから
- ③ 元の手書き原稿からは解放されたが、今度は編集者の悪筆と格闘するはめになったから
- ④ 編集者が示す「正解」に惑わされずに読まねばならないという新しい課題が増えたから
- ⑤ 「訊いたら負け」という空気があって、どうしても読めないときでも尋ねることができないから
- ⑥ 訓練を受けた職人や著者と同じくらいの長い編集者とはかり、校正の仕事ができるには限らないから
- ⑦ オリジナルを見よというのが校正の大原則なのに、他者を介した校正しかできなくなってしまうから

問二十五 傍線部④「赤字照合」にかんする説明としてもつとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 書き込まれた指示とおり修正がなされているかを確かめる作業である
- ② 作家の手書き原稿の内容が、ゲラに正しく反映されているかを確かめる作業である
- ③ 体裁やルビなどの指定が、ゲラに正しく反映されているかを確かめる作業である
- ④ 著者の書き込みと編集者の書き込みを見比べて、より正しい内容に修正を確定する作業である
- ⑤ オリジナル原稿と印刷所の職人や編集者による解説結果を照らし合わせて、ゲラを仕上げる作業である

問二十六 甲 乙 文の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① 校正者は書き手や編集者とのやりとりを通じて、文章や活字の強靱さを生み出す仕組みの一端を担っている
- ② データ入稿が主流の現在、手書き原稿はほとんど減っており、引き合わせの技術は必要とされなくなりつつある
- ③ 校正は見た目よりも骨の折れる仕事であり、一日ゲラを読んだ後には、筆者は好きな本を読む気力をなくしてしまう
- ④ 頭の中で幾度となく反復された記憶はしばしば事実とは異なるため、著者本人によるファクトチェックが必要とされる
- ⑤ かつては、どうしても原稿が読めなかったときには著者自身が音読してカセットテープで解決することが定常であった
- ⑥ 三谷幸喜は、映画「ペーパー・ムーン」中の主人公とその元恋人の関係にかんする記憶違いを校閲記者から指摘された
- ⑦ 校正では、ミスは「正す」というより「こうではありませんか」と指摘するような態度が適切だと筆者は考えている

入試	日程	科目	大問	執筆者名	書名	発行所	クレジット
公募	11/20	国語		堀越 英美	女の子は本当にピンクが好きなのか	河出書房新社	
公募	11/21	国語		橋本 裕介	芸術を誰が支えるのか —アメリカ文化政策の生態系	京都芸術大学 舞台 芸術研究センター	
公募	12/14	国語		小川 さやか	「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済	光文社	
一般	前期 1/23	国語	甲乙	平野 卿子	女ことばってなんなのかしら？ 「性別の美学」の日本語	河出書房新社	
一般	前期 1/23	日本史	Ⅲ-D	竹久 夢二	日本史探究 所収 黒船屋	実教出版	
一般	前期 1/23	世界史	I	臼井 隆一郎	アウシュヴィッツのコーヒー コーヒーが映す総力戦の世界	石風社	
一般	前期 1/23	世界史	Ⅱ	牧角 悦子	アジア人物史 第1巻神話世界と古代帝国(古井 龍介他)所収 中国神話 中国古代史の再構成	集英社	
一般	前期 1/23	政治 経済	Ⅱ	経済企画庁	昭和31年度 経済白書 —日本経済の自立と近代化—	至誠堂	
一般	前期 1/24	国語	甲乙	可児 弘明	鶉飼	中央公論新社	
一般	前期 1/24	日本史	I-1 21	平賀 源内	高校日本史 所収 西洋婦人図	山川出版社	Photo: Kobe City Museum/DNPartcom 無断で複写・転載を禁じる
一般	前期 1/24	世界史	I	菊池 良生	神聖ローマ帝国	講談社	
一般	前期 1/24	世界史	Ⅱ	並木 頼寿	日本人のアジア認識(世界史リブレット 66)	山川出版社	
一般	前期 1/24	政経	I	内田 樹	街場の米中論	東洋経済新報社	
一般	前期 1/27	国語	甲乙	飯島 渉	感染症の歴史学	岩波書店	
一般	前期 2/3	国語	甲乙	カレル・チャベック 作 栗栖 継 訳	山椒魚戦争	岩波書店	
一般	前期 2/3	日本史	Ⅲ-D 37		日本史探究 所収 戦後の復員・引揚げ者者数	実教出版	
一般	前期 2/3	世界史	I	池上 俊一	ヨーロッパ史入門 市民革命から現代へ	岩波書店	
一般	前期 2/4	国語	甲乙	西村 祐子	皮革とブランド 変化するファッション倫理	岩波書店	
一般	後期 3/3	国語	甲乙	牟田 都子	文にあたる	垂紀書房	
公募	11/20	英語	I	Caty Weaver Ashley Thompson	VOA Learning English April 16, 2019 Study: Paper Reading More Effective Than Screen Reading	VOA News	
公募	11/21	英語	I	Bianca Vásquez Toness	VOA Learning English November 07, 2023 Housing Important for Keeping Children in School ⇒原典: AP, Nov 2, 2023 At 15, he is defending his home and parenting his sister. One young man's struggle to stay in school	VOA News ⇒The Associated Press	
公募	12/14	英語	I	Matthew Cantor	The Guardian Tue 17 Oct 2023 US pedestrian deaths are soaring. Is it time to ban right turns on red lights?	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	前期 1/23	英語	I		WHO Europe website 17 November 2023 "For me, long COVID was life destroying" – Eric, a vicar from the UK, on how rehabilitation services gave him hope	WHO Europe website	For me, long COVID was life destroying" – Eric, a vicar from the UK, on how rehabilitation services gave him hope. World Health Organization; 2023. Licence: CC BY-NC-SA 3.0 IGO.
一般	前期 1/23	英語	Ⅱ	RHYANNON BARTLETT	Nikkei Asia January 19, 2024 Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know	Nikkei Asia	Nikkei Asia "Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know" Jan 19, 2024 ・Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know (Nikkei Asia, Jan 19, 2024)より一部改変 ・日本経済新聞社に許諾を得て掲載し ています ・無断で複写・転載を禁じる
一般	前期 1/24	英語	Ⅱ	Martin Buzacott	ABC 19 Aug 2020 What is the best classical music to recommend to a newcomer?	ABC	Reproduced by permission of the Australian Broadcasting Corporation - Library Sales Martin Buzacott © 2020 ABC
一般	前期 1/27	英語	I	Jacob Reed	Sustainable Japan February 19, 2021 How the pandemic will change artists' spaces, choices and voices	The Japan Times	The Japan Times, Feb 19, 2021
一般	前期 2/3	英語	I	Angelique Chrisafis	The Guardian Sat 10 Feb 2024 Fighting the smartphone 'invasion': the French village that voted to ban scrolling in public	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	前期 2/3	英語	Ⅱ		EDIBLE WAY	EDIBLE WAY project	
一般	前期 2/4	英語	I	Paul Wiseman	VOA Learning English January 30, 2024 IMF Sketches Brighter View of Global Economy, Upgrading Growth Forecast and Seeing Lower Inflation ⇒原典: AP, Jan 30, 2024 IMF Sketches Brighter View of Global Economy, Upgrading Growth Forecast and Seeing Lower Inflation	VOA News ⇒The Associated Press	
一般	前期 2/4	英語	Ⅱ	Amelia Gentlem	The Guardian Tue 13 Feb 2024 '97% seemed absurd': Labour's Stephen Timms on the English test scandal that wrecked lives	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	後期 3/3	英語	I	Jessica Berman Anna Matteo	VOA Learning English June 02, 2015 For a Longer Life, Go Running	VOA News	"For a Longer Life, Go Running" by Anna Matteo, VOA Learning English, June 2, 2015 based on "5 Keys to Running Healthy and Staying Injury- Free" by Jennifer Van Allen, Runner's World, Apr 25, 2013.
一般	最終日程 英・国総 合型	英語	I	Futoshi Mori	The Japan News October 16, 2024 Serendipitous "Genji" Encounter Changed Keene's Life; Exhibition Shows Work's Charms Through Scholar's Eyes	The Yomiuri Shimbun	2024年10月17日The Japan News
一般	最終日程 英・国総 合型	英語	Ⅱ		Bangkok Post, Jan 24, 2025 Bangkok air pollution forces 352 schools to close	AFP	© Agence France-Press